

5 失敗しても諦めないで

1 下山学園高校 72 周年記念講演

下山学園高校は、開校 72 周年の記念講演を行いました。講演には落語家の笑福亭羽光さんが「失敗は笑いのもと」と題して自身の学生時代の失敗談などを紹介し、前を向くことの大切さを呼びかけました。

羽光さんは学生時代にプールで溺れたというエピソードを基にした私小説落語を披露。当時はコンプレックスを抱えていたが、今ではそれを笑い話に変えられ落語家として活躍できるきっかけになったとし、「失敗は後々、笑い話に変えられるようになるので、絶対に絶望しないでほしい」と呼びかけました。



私小説落語を披露する笑福亭羽光さん



グループ討論中の中学生たち

5 いじめ未然防止のために討論

1 鶴田中学校「いじめについて考える授業」

鶴田中学校で全校生徒を対象にした、いじめが起こるメカニズムを知り、未然防止につなげるための特別授業が行われました。

講師を務めた上越教育大学の高橋知己教授は、いじめが表面化しづらい理由 19 項目を紹介。生徒たちは異なる学年や男女混合のグループになり、いじめの原因について話し合いました。グループ討論では「被害者が相談できない」などの項目が原因として挙がり、高橋教授は上位 5 つが他校や教員向けに行った過去の結果とほぼ一致しているとして「どの世代も認識は共通している。早期発見の鍵は自分に何ができるか考え、周囲とコミュニケーションを取ること」と助言しました。

5 自然の中を楽しくランニング

11 第 24 回津軽富士見湖一周マラソン&ウォーキング大会

津軽富士見湖周辺で、健康増進やスポーツを通しての交流、観光スポットの紹介を目的とした「第24回津軽富士見湖一周マラソン&ウォーキング大会」が開催されました。

当日は天候にも恵まれ、町内外から約60人が参加。参加者たちはおのおの日頃の練習の成果を発揮し自己ベスト更新を目指したり、家族や仲間と楽しそうに自然の中でのマラソンやウォーキングを楽しんでいました。



勢いよくスタートした参加者たち



野望の話。

先日、津軽富士見湖一周マラソン&ウォーキング大会にてスチューベンジュース、スチューベンキャンディをゴール後のランナーに振舞わせていただきました。

今でこそこんなりをしてありますが私、かつては「趣味：マラソン」を標榜しておりました。とは言えコース上に設置された食べ物やドリンクを提供する場所「エイド」が目当ての「食ベランナー」でしたが、参加して印象深かったレースの1つは千葉県富里市で行われる富里スイカロードレース大会。コースの終盤に給水所ならぬ「給スイカ所」があり、さらにゴール後もおいしいスイカが食べ放題。完走後に食べる富里スイカは格別のおいしさでした。このような産地と名産品を冠にしたマラソン大会、すなわち「つるたスチューベンマラソン」をいつか実現させたいというのが私の密かな野望です。



△大会でジュースなどを振る舞った葛西さん



Facebook



Instagram

地域おこし協力隊の活動内容は、各種 SNS でも確認することができます。



4月にオープンした「つるのやど」

5/15 昭和の雰囲気味わえる宿泊施設 宿泊施設「つるのやど」

町内に新たな宿泊施設「つるのやど」が4月にオープンしました。運営するのは木村牧場。創業者で昨年亡くなられた木村一味さんが暮らしていた自宅をそのまま生かした宿泊施設で、昔懐かしい昭和の雰囲気を楽しめます。

建物は昭和後期に県産ヒバを使って建てられており、宿泊客が利用できる1階部分は縁側から岩木山を望める居間やゆったりとくつろげるソファがある応接室などがある4LDKとなっています。また、現在は庭にバーベキュー施設を準備中です。

5/21 功績が認められ瑞宝単光章を受章 第44回危険業務従事者叙勲

第44回危険業務従事者叙勲において、町内在住の笹森武雅さん（元五所川原地区消防事務組合消防司令）が、消防功労による瑞宝単光章を受章されました。

危険業務従事者叙勲は、警察官、消防吏員、自衛官など著しく危険性の高い業務に精励し、国家または公共への功労が認められた方に贈られるものです。

笹森さんは、昭和45年に消防士として採用され、鶴田消防署消防隊長などを歴任。地域の安全を守る消防業務に尽力されました。その長年にわたる多大な貢献が認められ、今回の受章となりました。



相川町長に受章の報告をした笹森さん（左）



一生懸命花の植栽を行う園児

5/22 お客さんをきれいなお花でお出迎え♪ 富士見湖パーク 花の植栽

富士見湖パークを訪れた人に楽しんでもらうため、パーク内の円形花壇で花の植栽が行われました。

町では毎年この時期、花壇に約1万本のペゴニアの花を植える活動を行っています。この日は町内の保育園の子どもたちや五所川原農林高校の生徒、観光ガイドなど約180人が参加。つるた乳幼児園の園児たちが「きれいなお花で訪れた人を元気にします」と植栽宣言を行い、参加者たちは白や赤の鮮やかなペゴニアを一つ一つ丁寧に植えていました。

地域おこし 協力隊通信

Vol.87（筆：帯川 匠）

さてさて。鶴田町に移住してあつという間に1年が過ぎ、今年度から私は2年生です。

去年の今頃は何をしていたのかな？？と思い、日記とスマホの写真を見たらスチューベンの芽掻きを終え、草刈りをしていました。最初の頃は乗用草刈り機に慣れず、手に汗握りながら運転していましたが、今では快晴の空を見上げながら「今日の晩御飯もマエダの日替わり弁当か〜」なんてつぶやきながら、腰の痛みに耐えつつ作業しています。あまり調子に乗っていると師匠にお叱りを受けるのでここだけの秘密にしておきます。

そろそろ本題に移ります。今はスチューベンの新芽の間引きをしています。不器用ながらも頑張っていますが、芽を摘みすぎたり、残しすぎたりと2度手間を繰り返しています。

時間は掛かってしましますが、常にスチューベンに「おいしくなれ〜」と語りかけることを怠らず、今年度も頑張っていこうと思います。



▲スチューベンの新芽の間引きを行う帯川さん

地域おこし協力隊とは

人口減少や高齢化等の進行為が著しい地方において、地域外の人材を「地域おこし協力隊員」として町が委嘱。隊員には、地域おこし支援や地域協力活動を行っていただき、その地域への定住・定着を図る取組。